



19時からパパも子育て

子育てしやすいように職場環境を整えることは、従業員のやる気創出や業務の効率アップが期待できます。こうした取組の積み重ねが少子化克服への一歩です。子どもは社会の宝。仕事と子育てを両立しやすい環境づくりに会社全体で取り組んでいる企業へおじゃましてきました。



トヨタカローラ秋田株式会社（秋田市）

業種:卸売・小売業 従業員数:280名

<http://www.corolla-akita.jp>

秋田県内に16店舗を展開し、お客様のカーライフをサポートするディーラー。平成15年より全店を来店型営業に刷新。女性の視点をとり入れた店内の空間づくりやサービスも好評です。

経営方針の刷新で確立された 仕事の効率化&高密度化

トヨタカローラ秋田では、平成15年夏に経営刷新が行われました。従来の訪問型営業を完全廃止し、来店型営業に転換したのです。お客様に来店してもらえるよう、各店で従業員のチームワークを強め、さまざまな取組を進めてきました。

その一環で平成22年には、全店舗の閉店時間を18時に統一。夜遅いイメージが定着するカーディーラーの企業風土の見直しを図りました。従業員には、営業時間内で効率的に仕事を進める意識が高まりました。ノー残業で生まれた時間は、家族と過ごすためや、自分を高めるために活用されています。従業員と顧客サービスの満足度を高めた結果、業績と企業イメージのアップにつながりました。



●従業員から

(サービスマネージャー 佐藤さん、営業 佐川さん 営業 菅原さん)

OFFの充実を仕事に活かす

「”この仕事を終わらせなきゃ帰れない”から”この仕事を〇時までには終わらせよう”に、考え方が変わりました。作業効率を上げるため、チームでサポートをしながら仕事をすすめています。帰宅後は、子どもたちといっぱい遊んでいますよ」と佐藤さん。

佐川さんは、新米パパです。「娘の成長をそばで見ることができるので、毎日の育児がとても楽しいです。同じく子育てをしている友人には、子どもとふれ合う時間が多くていいな、と言われる」。

「仕事とプライベートをきちんと分けられていると、それぞれに集中することができるので、とても有意義な時間を過ごさせていただいています。日々のストレスの軽減にもつながると思います」と菅原さん。





●職場から
(伊藤秋田南店店長)

「時間の使い方」により厳しい視点で

18時閉店になってから、社内で大きく変わったのは、一人ひとりの時間に対する目標意識です。単に閉店時間までに仕事をこなすだけではなく、お客様との約束やミーティングなどあらゆる時間の使い方について、従業員が厳しく考えるようになったと実感しています。お客様との打合せ等が無い従業員は、ほぼ定時で帰宅します。私自身も早めの帰宅が定着してからは、体力的にもラクになり、日々の仕事に全力で向かえるようになりました。

週に一度、各店で行う定例のミーティングももちろん閉店前の早い時間帯で行います。この時間は従業員たちが考えていることを本音で話し合える機会です。生産的な会話や意見交換を通じてチームワークの向上に努めています。



効果が見られた点

- ◎ONとOFFの切り替えで、効率よく時間を管理できるように。
- ◎「ノー残業」の企業イメージは、業績や人材確保のカギになる。